

## 令和7年度 佐賀県小中学校校長会活動方針

グローバル化や知識基盤社会の到来、少子高齢化の進展など、社会が急速に変化し、将来の予測が困難な時代において、一人一人が社会の担い手となり、幸福や生きがいを感じるためには、教育の重要性がますます高まっている。特に情報技術の急激な進展のなかで、生成 AI を含むデジタル技術の適切な活用は、現代社会の喫緊の課題である。

こうした中、我が国の学校教育では、児童生徒一人一人が自立した人間として自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化に対応する資質・能力を育成することが求められている。

これからの学校は校長の明確なビジョンと確かなリーダーシップのもと、社会に開かれた教育課程の実現や教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの確立、SDGs 等の新しい社会に指向した教育実践を進めていく必要がある。同時にこれまでの教育実践を生かし、児童生徒や地域の実情を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を推進していかなければならない。

そのために、たくましく生き抜く力の根幹である学力の保障、他者を尊重し、協働する豊かな心、たくましく健やかな心身の育成を目指し、学校、家庭、地域及び関係機関、学校間・校種間の連携・協働を一層強化し、教育活動の更なる充実を図っていく必要がある。さらに、「いじめや不登校等の生徒指導上の諸課題」、「特別支援教育の充実」、「GIGA スクール構想の推進」、「働き方改革」等の当面する課題にも対応していかなければならない。

本県は新規教員の大量採用期にありながらも教員不足の状況にある。教育水準の維持・向上を図るため、教員の資質・能力を高めることが重要であり、若手教職員やミドルリーダーの育成、教職員人事評価制度や研修履歴の管理を有効に活用し、職務遂行能力や学校力の向上、学校における働き方改革を念頭に置いた学校経営の活性化を図る必要がある。

佐賀県小中学校校長会は、以上のことを深く認識し、第4期教育振興基本計画、佐賀県教育大綱 Vol.3 及び教育施策実施計画のもと教育行政の一翼としての役割を積極的に担い、自らの使命と責任を自覚し、互いの尊重と協働のもと、しなやかさを持ち、高きに和す、存在感のある組織として着実に歩みを進めていく。

校長会は活動の検証・改善を行いながら、喫緊の教育課題の解決に向け、佐賀県教育委員会と共に「ほめるから、はじめる。はじまる。」を合言葉に、夢や志をもち、自ら考え、判断し、行動できる心豊かでたくましく生き抜く力を身に付けた児童生徒の育成を目指し、安心・安全な学校環境の構築に努める。また、県民の期待と信頼に応えるため、教職員の規律保持を徹底し、積極的な学校情報提供とビジョン共有による地域との連携強化を推進する。

さらに、令和6年能登半島地震をはじめとする自然災害等の被災地における教育活動の正常化支援は、被災地の校長会からの情報を得ながら継続して取り組む。

以上の観点から、次の項目を活動の重点とする。

- 1 教育施策の円滑かつ有効な実施に向けた取組
- 2 教育課題解決のための組織的な調査研究と主体的な取組
- 3 教職員の資質及び指導力の向上を促す取組
- 4 教育行政の一翼を担うべく教育委員会との連携強化の取組
- 5 校長会組織の機能強化及び充実に向けた取組